

ロータリー奨学金 第1回報告書

(期間: 2024年8月1日～2024年10月30日)

総括

アメリカでの MBA 生活が始まり、初めの3ヶ月は主に授業の予習復習等、学業面に多大なる時間を費やした日々でした。学業は大変充実しており、授業から得る学びを通じて自分のスキルや視野が大きく広がっているのを感じています。また、アメリカにいるこの機会を活かし、現地でのネットワーキングや異文化交流にも積極的に取り組んでいます。次の学期では、さらに活動範囲を広げ、学業やキャリア形成を深めていきたいと考えています。

1. アカデミック状況

2024年8月最終週より、秋学期 (Fall Semester) の授業がスタートしました。現在、以下の必修コアクラスを受講しています。これらの授業は、ビジネスの基礎となるスキルを体系的に学ぶものとなっています。

- **マーケティング:** 実際の企業事例を用いたケーススタディを通じて、ブランド戦略や顧客セグメンテーションの方法を学びました。特に、競合分析を含むグループプロジェクトは、実践的な学びの場となっています。
- **統計/データ分析:** データ分析ツールを活用し、実際のデータセットからビジネスインサイトを引き出すトレーニングを行いました。この知識は観光業の市場調査に活用できると感じています。
- **経済学:** 経済原理やマクロ経済政策が業界や企業戦略に与える影響を分析しています。
- **ファイナンス:** キャッシュフロー分析や投資戦略の立案を学び、意思決定の基礎を構築しました。

- **会計:** 財務諸表の作成と分析を通じ、経営上の課題を発見するスキルを習得しました。
- **組織開発/リーダーシップ:** 多文化環境でのリーダーシップ理論を学び、チームをまとめるための効果的な意思決定プロセスを学んでいます。

授業では、事前準備や復習に多くの時間を費やす必要がありますが、その分、学びの深さを実感しています。特にケーススタディやグループワークを通じて、理論を実践に応用するスキルが身についているなど感じています。



キャンパスの様子。秋は紅葉が綺麗でした。



早朝のキャンパス。日中が学生で席が埋め尽くされます。

2. 学校生活とカルチャー

クラスメイトとの交流

約 400 人のクラスメイトは非常に多様なバックグラウンドを持ち、それぞれが興味深い経験や視点を共有してくれます。ディスカッションでは異なる文化や業界の視点を取り入れる機会が多く、自分の視野が広がるのを感じています。また、グループプロジェクトではリーダーシップを発揮しつつ、他者の意見を尊重しながらチームをまとめるスキルを磨いています。

フットボール文化

ミシガン大学はフットボールの強豪校で、去年は全米 1 位に輝きました。アメリカではフットボールは単なるスポーツではなく、地域コミュニティを象徴するイベントだと感じています。約 11 万人を収容するスタジアムでの試合観戦は圧巻で、チームを応援する熱気やエネルギーに圧倒されました。



スタジアムの様子。得点が入るたびに、会場全体が熱気に包まれます。

3. 日本の認知度と交流

日本文化への高い関心

クラスメイトの間で、日本の文化や観光地への関心が非常に高いことを実感しています。また、日本語を話せる学生や、日本文化について詳しいクラスメイトも多く、日本の魅力を改めて認識する機会となっています。

国際交流イベント

各国の文化を紹介するイベントの一環として、「日本のウイスキーNight」を企画しました。このイベントではウイスキーの歴史や楽しみ方を紹介し、実際にハイボールを提供しました。アジア系の参加者からは非常に好評でしたが、欧米系の参加者にはハイボールは不人気でした。また、名刺交換やお辞儀の種類を紹介するセッションを実施したところ、日本のビジネス文化への関心が高く、非常に良い交流の場となりました。

4. キャリア活動

観光業界でのネットワーキング

ミシガン大学の強力なネットワークを活用し、観光業界や関連企業のプロフェッショナルの方と積極的に面談を行っています。最近では、Marriott 本社の方やラスベガスの統合型リゾートで働く方々とお話しする機会がありました。これらの活動を通じて、観光業界の最新動向やキャリア形成に関する貴重なアドバイスをいただきました。これらの知見は将来のキャリア選択において非常に役立つと感じています。

このような貴重な学びと経験を提供してくださったロータリー奨学金に、心より感謝申し上げます。これからも学業と活動に全力を尽くし、次回の報告書ではさらなる進展をご報告できるよう努めてまいります。

久保尚美